

# 「北の国からの発信！地上デジタル新時代」

道放協全国大会実行委員会研究部

## 1. 大会開催の意義と研究基本構想

放送教育は、すでに半世紀以上の歴史を刻み、先輩諸氏の長年の研究と実践により、大きな足跡を残してきました。しかしながら、現在では、情報教育関連機器やメディアの多様化により、放送教育の役割が改めて問い直されるとともに、地上デジタル新時代に対応する放送教育の確立が求められています。

そこで、今大会では、右の3つのねらいを設定し、北の国札幌から、今後の放送教育にむけて、新たな可能性と方向性を提示していきたいと考えてきました。

子どもたちは放送番組が大好きです。どの教室でも、テレビを見ている子どもたちの瞳は、キラキラと輝き真剣そのものです。それゆえに、子どもたちは放送番組を視聴することによって、理解が深まり、感性が磨かれ、想像力が膨らみ、新鮮な知的感動によって学習意欲が刺激され、主体的な学習活動が展開されていくのです。さらには、番組視聴後の放送内容を中心にすえた話し合いや交流活動は、子どもたちに友達のよさや自分らしさの発見、知識の習得を促すだけでなく、心の成長をも促すことにつながります。そこには、何よりも番組を見るおもしろさがあり、新しい知識を知る喜びがあり、素晴らしい映像に感動する心が満ちあふれているからにちがいありません。これが、放送教育の持つ教育特性であり、有効性であると考えます。

私たちは、教育における放送番組の活用は、この教育特性や有効性を最大限に生かすことで、子どもたちに「豊かな心」や「確かな学力」を育み、「生きる力」を培うことにつながると考えています。

「豊かな心と知性（＝確かな学力）を持つ子どもの育成」を授業構築のキーワードとした各会場における公開保育・授業の中で、学習を通して育まれた子どもたちの豊かな心と知性がより輝きを発揮し、意欲的に取り組んでいく姿をご覧いただけたのではと思われまます。

## 2. 大会の実践課題と実践例

今大会では、3つの実践課題を設定し、検証していくこととしました。以下、今大会の代表的な実践例と合わせて紹介していきます。

### (1) 実践課題1 「地上デジタルテレビ放送の教育活用の実践的研究」

～札幌市立北辰中学校の実践例～

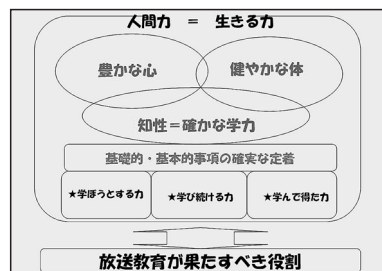
今大会では、全学級で公開授業を行うこととし、プロジェクトA、B、Cの3つに分かれて実践研究を進めてきました。

利用番組は、「マイクロワールド」と「おこめ」の2つで、それぞれ1年理科・生物の学習（継続視聴）と2年技術家庭科・食物についての学習（分断視聴）を行いました。ハイビジョン映像をあらかじめ視聴することによって、その後の実際の微生物の観察時に、その特徴を意欲的に調べようとするような関心を高める効果が見受けられました。また、食生活の課題には様々なものがありますが、大画面で高画質に映された放送番組を一斉に視聴することにより、全員が課題に対する統一された具体的なイメージを持つという効果も見受けられました。

今後の課題としては、地上デジタル放送の特徴の一つであるハイビジョン画質の番組が早急に増えることが望ましく、高画質の映像を映し出す大型のディスプレイやハイビジョン画質の録画機などのハードの普及が挙げられます。さらには、高音質や双方向性といった特徴を生かした番組開発が望まれるように思われます。

### 今大会のねらいとして…

- 番組研究や、風児・児童・生徒の保育・授業への関心を高めていくこと
- 学校放送番組に秘められている教育特性や有効性を検証していくこと
- 教育における地上デジタルテレビ放送や各教室のフロードバンド環境を生かした学校放送番組の活用方法を探ること



### 今大会の実践課題として

1. 地上デジタルテレビ放送の教育活用の実践的研究
2. フロードバンド環境を活用した映像教材活用の実践的研究
3. 放送番組の教育特性や有効性の検証

### 札幌市立北辰中学校の研究

- プロジェクトA  
IT環境で、NHKデジタル教材などを利用
- プロジェクトB  
教育放送番組（地デジ）を利用
- プロジェクトC  
放送番組（アナログを含む）を利用



(2) 実践課題2 「ブロードバンド環境を活用した映像教材活用の実践的研究」  
～札幌市立栄緑小学校の実践例～

栄緑小学校では、4・5年生の理科番組、「ふしぎ大調査」「ふしぎワールド」を利用した取り組みが見られました。

単元や1時間の授業の中で放送番組をセグメントに分けて視聴し課題をつかんだり、クリップ集を使って調べ学習をしたり、学習のまとめに放送番組の視聴をするとともに、インターネットの双方向性を活用したコンテンツ「わくわくゾーン」を利用する場面が見られました。

プラズマテレビの大画面で視聴する地上デジタル放送は、ゴーストのない鮮明な映像が大変魅力的であり、子どもたちの姿からはいつも以上に興味深く視聴している様子がうかがえました。また、クリップ集は、何回でもいくつでも見ることができるので、個人やグループの課題解決の学習を進めるうえで非常に効果的であるだけでなく、クリップの選択時に子ども同士のコミュニケーションが生まれるという側面も見受けられました。

今後の課題としては、映像や教材の単元・1時間における効果的な位置づけ、番組視聴後の学習展開の工夫などが挙げられますが、今後、ブロードバンド環境の整備が進む状況の中で、個人やグループの活動をより効果的に進めることができる新しい形の放送教育として益々発展していくことが期待されるように思われます。

(3) 実践課題3 「放送番組の教育特性や有効性の検証」

～花川南幼稚園・幌東幼稚園の実践例～

「遊び」は子どもにとって生活そのものであり、「遊び」を通して豊かな心情が育ち、「遊び」の広がりによって興味・関心がさらに深められると考えています。そのためには、教師の適切な援助と環境づくりが必要であり、「放送教材」を環境の一つととらえ、視聴しています。

年長組では、「しぜんとあそぼ」を継続視聴する中で、直接体験から視聴を通して理論的に内容が深められるとともに、自主性の育ちを感じ取ることができました。

年中組では、「あいので」の継続視聴を通して、イメージを膨らませ、身の回りのいろいろな音に気づき、友達とリズム表現をしたり楽器作りをするなど、子どもたちの思いを生かした活動の広がりや楽しさを味わうことができました。

年少組では、「つくってあそぼ」の継続視聴を通して、イメージを広げて、素材・材料の感触や質の変化を楽しみながら造形活動を楽しむ姿が随所に見られました。

継続視聴することは、番組に親しみ、いろいろな受け止め方に出会い、イメージの広がり、共鳴・共感の高まりや感動・発見・疑問を生み出します。それゆえに、放送番組の持つ特性を十分に活用することによって、自分に必要とする情報を自分で選び、自ら進んで学んでいく力を育てていくことが可能となるのではと考えます。

3. まとめにかえて

地上デジタル新時代が放送教育にとって大きな転換点になることは必至の状況であります。しかしながら、どんなに革新的な技術が導入され、新しいメディアが誕生しても、放送教育の原点である、「学校放送番組に秘められている教育特性や有効性を探る」実践研究の方向性には、今後も揺るぎがないものと考えています。

(記録 札幌市立栄東小学校 風間 和彦)

